

大分県竹田市教育委員会

【総人口】19,232人

【自治体 関連URL】<https://www.city.taketa.oita.jp/index.html>【主担当部局】竹田市市教育委員会学校教育課
（公立幼稚園公立小学校担当）【主な関係部局】竹田市社会福祉課
（保育所・認定こども園担当）

	幼稚園			保育所		幼保連携型 地域裁量型		小学校		
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	国立	公立	私立
施設数										
園児・ 児童数										

事業実施地域・
協力園校

【実施地域】

大分県竹田市

【協力園校】

幼：公立幼稚園1園、幼保連携型認定こども園1園

小：公立小学校2校

架け橋期の
カリキュラム開発
会議

【会議委員人数】

16名

【開催数】

4回

【委員属性】

公立幼稚園長1名、私立保育所長1名、公立認定こども園長1名、公立小学校長1名、公立幼稚園関係団体1名、私立幼稚園関係団体1名、教員養成大学教授1名、都道府県幼稚園担当者2名、市小学校担当者2名、市幼児教育担当者3名

架け橋期の
コーディネー
ター等

【配置人数】

1名

【経歴】

・元私立幼稚園長、元公立小学校長、県SV

架け橋期の
カリキュラム

【開発主体】

南部小学校区（1公立幼稚園、1公立小学校）

カリキュラム開発会議

視点	留意事項
架け橋期のカリキュラムに関する議論	竹田市では、カリキュラム開発会議を組織し、そこに作業部会）を２つ設定している。 ・第1作業部会ではカリキュラム作成、実施、検証 ・第2作業部会では、架け橋期の体づくりについて研究 昨年度の合同研修会において、全教職員に架け橋期にめざす子供の姿についてアンケートを実施。 それをもとに、竹田市の全教職員の意見をカリキュラムに反映 ※意見は300以上にのぼり、それをもとに第1作業部会で、中学卒業までの15年間を見通した竹田市教育ビジョンを念頭に置き、竹田市の架け橋期の子供の姿を検討 竹田市のカリキュラム開発会議のメンバーは、有識者、保護者、学校・園関係者、教育委員会、社会福祉課で構成されている。 作業部会から出された竹田市のめざす子供の姿について ・保護者から「難しくて、わかりにくい」、 ・学校から「汎用性が低い」などの意見が出された。 ・園からは、「しっかり研修して作成していきたい」という前向きな言葉も聞かれた。 → そのような意見を元に、「竹田市のめざす子どもの姿」設定 「考えをもち表現する子」「伝え合い認め合う子」「探究心をもち粘り強く取り組む子」 →→竹田市版架け橋期のカリキュラムを作成開始。※南部幼小モデル案作成（資料１） →→→ ６月に市内全学校全幼児教育施設に公開。 →→→→ 現在、各学校・各園で作成。 第２作業部会では、架け橋期の体づくりについての研究。 ・竹田市５歳児検診の結果および作業療法士や理学療法士の意見を元に、必要な運動を「タケタン体操」として各学校に周知。 ・指導員として作業療法士など専門家を派遣。 ・昨年度は５校３園実施だったが、今年度は11月現在８校10園で実施。
会議設置による成果と課題	成果：多様な委員によって、立場を超えたカリキュラム開発が進んでいる 課題：令和７年度以降の組織のついて検討が必要

架け橋期のカリキュラム

視点	留意事項
開発プロセス	◎市内4ブロックにおいて、幼保小合同研修会を実施。子どもの姿をもとにめざす子どもの姿について協議。架け橋プログラムについて研修。アンケート実施 ◎アンケートをもとに開発会議にて、カリキュラムの方針決定 第1作業部会（カリキュラム開発） ◎南部小（協力校） ・幼稚園派遣の知見をもとにスタートカリキュラム作成・検証。域内にモデルプランとして配布。 ・生活科の授業を中心に単元内容と保育内容を関連付けながら単元案を作成。 ◎南部幼（協力園） ・幼児期の終わりまでに期待する姿をもとに遊びを整理。遊びの中から子どもの姿をみとる ※お互いの授業や保育を参観しながら作成 ◎協力校（6月）協力園（11月）に授業（保育）参観を実施。 ・全施設より職員参加。子どもの姿を中心においた協議の幼保小合同会議のデモンストレーション。・大分県幼児教育センターの架け橋プログラムの説明 ◎市内4ブロックにおいて各ブロックが主体となり幼保小合同会議の実施。市教委による架け橋プログラムの説明。協議を通じて職員同士の交流。 ○竹田市のめざす子どもの姿を重点的に説明することで幼保小の先生が同じベクトルで架け橋プログラムを考えることができ、汎用性があったので日常的に意識できている ○説明だけでは理解が深まらないので、保育参観や授業参観を行い、その子どもの姿で協議することで、先生同士の関わりも深まり、架け橋期の理解も深まった。 ○県の説明を受け、市教委や社会福祉課も積極的に行政説明を行い、合同会議の内容の共有をはかったことで、悩みの共有が進んだ。
架け橋期のカリキュラムの概要	○A3版。左に5歳児の1年間、右に小学校の1年間の2年間で作成。 ○上部に竹田市の教育目標、その下に架け橋期のめざす子どもの姿。中央にめざす資質能力の詳細を設置。 ○幼児期から小学校にかけて、資質能力でつながる架け橋のイメージのデザイン ○各園、各校の詳細な内容はオレンジの四角を配置。関連項目は線で繋いでいる。下部には交流事業を配置。 ○各園、各項においての配慮事項を配置することで、常時意識することができている。
架け橋期のカリキュラムの実践	○（R4）協力園・協力校においてカリキュラム作成 ○（R5）カリキュラムをもとに実践、授業および保育の公開（子どもの姿とめざす姿について検証） 竹田幼：協力園のカリキュラムをもとに作成・実践 各小学校：モデル校のスタートカリキュラムの実践、カリキュラム作成、実践 ※カリキュラムの修正というよりも小学校の先生の意識が「幼稚園ではどうだった？」という発言が増えていったように、小学校がスタートではなく、幼稚園が遊びのなかで学びの土台を作っていくことについて自覚するようになったことが大きな進歩である。（資料2） ※課題としては、すべての園が学びの土台としての遊びについて実践を進めていくように、研修と行うこと

次年度への展望

視点	留意事項
成果と課題、及び展望	たけたスマイルブリッジ プロジェクト （子育て世代包括支援センターと学校教育課の協働による架け橋期の子どもの発達支援事業） 0. 令和７年４月～ 1. 専門家派遣事業の拡充 （１）理学療法士の派遣（全保育施設、小学校１年）（◎） （２）保健師によるカンファレンス 2. 幼児教育アドバイザーの活用 （１）竹田市幼児教育アドバイザーの委嘱 （２）年間３回の幼児教育施設訪問支援（◎） （３）職員研修（年４回）（◎）：※施設長会議 3. 幼保こ小の連携の強化（両課による協働実施） （１）幼保こ小合同研修会の開催（各小学校区にて年１回） （２）就学にむけた情報共有（５歳児フォロー相談会）※福 （３）カリキュラム開発会議の開催（◎） ※学 ※ ◎は謝金など予算を伴う。